

北海道大学のパイプオルガンは、道内で二番目に古い歴史をもち、今でも札幌コンサートホールのオルガンに次ぐ規模を誇ります。

「総合大学では学問だけではなく、芸術を愛する者を育てる必要がある」という杉野目晴貞学長(当時)の考えに基づいて、創基 80 周年記念事業の一つとして計画され、1966 年に完成しました。芸術系の学部・学科をもたない国立総合大学でオルガンをもつのは北大と東大駒場のみです。

1990 年代から積極的に活用がはかられ、北海道大学パイプオルガン研究会が設立され、2002 年からは全

学教育「コアカリキュラム」の重要な構成要素である「芸術と文学」の一科目として毎年集中講義に利用されています。

札幌コンサートホールの専属オルガニストも、2004 年 11 月マテュー・マニュゼスキさん、2013 年 8 月マリア・マグダレナ・カチョルさんが北大のオルガンで演奏会を開いています。

ポーランドにとって今年は独立回復 100 周年記念の年であることにちなんで、ポーランドオルガン音楽の 500 年を回顧するプログラムを企画しました。



### 第 19 代札幌コンサートホール専属オルガニスト

#### マルタンさんが北大オルガンで奏でるポーランドオルガン音楽の 500 年

北海道大学クラーク会館講堂、2018 年 8 月 10 日(金)18:00~19:00(開場 17:30)

### プログラム

クラクフのミコワイ(ニコラウス・クラコヴィエンシス、16 世紀はじめ)

前奏曲 へ調

ポズナンのエール(古いポーランド舞曲)

サルヴェ・レジナ(元后あわれみの母)

ハイドウツキ(古いポーランド舞曲)

作曲者不詳:グダニスクのオルガンタブラチュア譜より(1591)

幻想曲風

作曲者不詳:オリヴァ大聖堂のオルガンタブラチュア譜より(1619)

舞曲風組曲

ヴォングロヴィエツのアダム(?-1629)

リチェルカータ 第 3 療法

ヴワディスワフ・ジェレンスキ(1837-1921)

オルガンのための前奏曲 作品 38-23「御手にゆだね」

ミュチスワフ・スジンスキ(1866-1924)

奇想曲 嬰へ短調 作品 36

ポーランドの聖歌「聖なる神」による即興曲 作品 38

フレデリック・ショパン(1810-49)

／フランツ・リスト(1811-86)

前奏曲 第 4 番ホ短調 作品 28-4

フレデリック・ショパン(1810-49)

／ウィリアム・トーマス・ベスト(1826-97)

前奏曲 第 20 番ハ短調 作品 28-20

ミハウ・クレオファス・オギンスキ(1765-1833)／アンジェイ・クピェツ

ポロネーズ「祖国への別れ」

カール・シマノフスキ(1882-1937)

／アリスティア・ホワイトマン(\*1947)

練習曲 第 3 番変ロ短調 作品 4-3

マリアン・サヴァ(1937-2005)

踊る絵

マルタン・グレゴリウス(\*1991)

即興演奏



### マルタン・グレゴリウス Martin Gregorius

1991 年ポーランド・グディニア生まれ。グダニスク・スタニスワフ・モニューシユコ音楽アカデミー、デトモルト音楽大学、及びパリ国立高等音楽院、リヨン国立高等音楽院でオルガン、即興演奏、音楽理論、作曲、宗教音楽を学び、2017 年イグナツィ・ヤン・パデレフスキ国立音楽アカデミーにてオルガン演奏の博士号を取得。

これまでにベルサイユ宮殿王室礼拝堂をはじめヨーロッパ各国でコンサートを行ったほか、北西ドイツ・フィルハーモニー管弦楽団をはじめとするさまざまなオーケストラや演奏家と共演。教育活動にも熱心に取り組んで

いる。また、ドイツ、ポーランドにおいて教会オルガニストを歴任。

2016 年シュレーグル国際オルガン即興コンクール第 1 位、同年第 6 回ヴェストファーレンインプロコンクール第 1 位及び観客賞のほか、ドイツ、イタリア、ルクセンブルク、ポーランドをはじめヨーロッパ各国のコンクールで優秀な成績を修めている。12 年には故郷ポーランドでグダニスク市長より、若手アーティストに贈られる aretNoble 賞を授与された。

2017 年 9 月、第 19 代札幌コンサートホール専属オルガニストに就任。

**Martin Gregorius Organ Recital at Hokkaido University “500 years of Polish organ music”  
Clark Memorial Student Center, Hokkaido University, Friday, August 10, 2018, 18:00-19:00**

**Program**

- Mikołaj z Krakowa** [Mikolaj from Krakow] (early 16<sup>th</sup> century) : Preambulum in F [1’]  
Alie poznanie (old Polish dance) [1’]  
Salve Regina [1’]  
Hayducki (old Polish dance) [1’]
- Anonymous: from the **Gdansk Organ Tablature** (1591) : Phantasia aliqua [2’]
- Anonymous: from the **Oliva Organ Tablature** (1619) : Suita tańców [Suite of dances] [4’]
- Adam z Wągrowca** [Adam from Wagrowiec] (?-1629) : Ricercata terty toni [2’]
- Władysław Żeleński** (1837-1921) : Preludium op. 38 nr 23 „Kto się w opiekę“ [5’]
- Mieczysław Surzyński** (1866-1924) : Capriccio fis-moll op. 36 [7’]  
Improwizacje na temat pieśni kościelnej „Święty Boże“ op. 38  
[Improvisations on the Polish sacred song “O Holy God” Op.  
38] [10’]
- Fryderyk Chopin** (1810-1849)/Franz Liszt (1811-1886) : Preludium e-moll op. 28 nr 4 [2’]
- Fryderyk Chopin** (1810-1849)/William Thomas Best (1826-1897) : Preludium c-moll op. 28 nr 20  
[2’]
- Michał Kleofas Ogiński** (1765-1833)/Andrzej Kupiec: Polonez „Pożegnanie ojczyzny“ [3’]
- Karol Szymanowski** (1882-1937)/Alistair Wightman (\*1947) : Etiuda b-moll op. 4 nr 3 [Study in B  
flat minor Op. 4 No. 3] [4’30”]
- Marian Sawa** (1937-2005) : Taneczne obrazki [Dancing Pictures] [5’30”]
- Martin Gregorius** (\*1991) : Improwizacja [Improvisation] [9’]

**Martin Gregorius biographies**

<http://martingregorius.com/biographies/>